

艦上攻撃機の練習航空隊

宇佐海軍航空隊と姫路海軍航空隊

宇佐海軍航空隊(宇佐空)は、昭和14(1939)年10月、航空母艦で離発着する艦上機のうち艦上攻撃機(艦攻)および艦上爆撃機(艦爆)の搭乗員(操縦員や偵察員など)を養成する練習航空隊として開隊し、それまでの艦攻搭乗員教育が集約されました。艦上機の搭乗員の養成は、基礎教育を行った後に練習航空隊で実戦機による訓練を行い、その後航空母艦などの実戦部隊に配属されました。

昭和16(1941)年12月に太平洋戦争が始まると、航空兵力を増強し搭乗員教育を拡大するため、艦攻搭乗員の練習航空隊として昭和18(1943)年10月に姫路海軍航空隊(姫路空)が開隊しました。同時期に茨城県百里原海軍航空隊(百里空)でも艦攻搭乗員の訓練が始まりました。

太平洋戦争末期には、これら三つの航空隊も実戦部隊となり、鹿児島県串良基地(鹿屋市)から沖縄方面へ特攻出撃し、多くの搭乗員が戦死しています。

艦攻搭乗員の訓練機は搭乗員3名の九七式艦上攻撃機が主で、航空母艦や南方の基地などで使用された機体が訓練用に配置されました。

艦上攻撃機の練習航空隊

— 九七式艦上攻撃機の訓練を中心に —



宇佐海軍航空隊所属の九七式艦上攻撃機



4月6日、串良基地における出撃前の
濱田武夫司令の訓示